

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	
						学校関係者の意見	
<p>1 生徒を伸ばす学習指導</p> <p>① 分かる授業と基礎基本を定着させる指導と支援</p> <p>② 学習意欲を向上させ、学習習慣をつける指導</p> <p>③ 効果的な習熟度別授業展開と個別指導の充実</p> <p>④ 国際交流活動を通しての異文化への興味・関心の向上と異文化理解</p> <p>⑤ 普通科及び森林クリエイト科の特長を生かした教育活動の充実</p>	<p>① 研究授業(教科)全教職員が年間2回以上参加</p> <p>② 家庭学習時間1時間以上の割合 40%以上</p> <p>③ 那賀高校は一人一人の希望・能力・適性に応じた、進路指導をしている。「当てはまる」と答えた生徒の割合 80%以上</p>	<p>①初任者研修、授業力向上研修、中高チームティーチング公開授業等、研修の機会を活用し、授業力向上に関する研修を行う。</p> <p>①年2回の相互参観授業月間を設定する。</p> <p>②1週間ごとに週末課題を課し、家庭での学習習慣をつけさせる。また、実態に応じた補習授業を計画し、積極的に実践する。</p> <p>③コース選択を見据え、十分なガイダンスを行い習熟度別または科目選択において少人数による指導を徹底する。さらに補習においては学科の枠を越えた横断的な授業展開を行う。また、授業の指導法と評価の在り方について全教職員が研修し、実践する。</p> <p>③学年初めに各学年の進路希望の状況と成績等の現況について分析し、実態に応じた補習、個別指導を実践し、実態に応じた補習計画等の年間計画を立てる。年間5回の進路希望調査を行い、個別指導計画の見直しを行う。</p> <p>・校内実力テストや模擬試験の成績、生徒の進路希望等を教員間で情報共有することで、教員が連携して、個々の生徒への学習指導につながる体制を築く。</p>	<p>①年2回の相互参観授業月間を含め、予定通り実施することができた。</p> <p>②1時間以上の家庭学習状況は、3年生49.2%(9月進路マップ調査)、2年生34.7%、1年生39.3%(1、2年生ともに1月進路マップ調査)であり、概ね40%は達成した。2学年においては学習しない生徒も約40%であり、中だるみ傾向にあることが課題となった。</p> <p>③生徒対象の学校評価アンケートでは、「当てはまる」と答えた生徒は、82%であり、当てはまらないという生徒は約5.5%であり、個々の進路指導は一定の成果を上げた。</p>	<p>①初任者研修、授業力向上研修、中高チームティーチング公開授業を実施し、授業研究会または、授業参観シートにより授業力向上研修を行った。</p> <p>②実力テストでの進路マップおよび、年間5回の進路希望調査において家庭学習時間を調査し、生徒の学習意識への継続を図った。スタディサプリやClassiポータルフォリオなども活用しながら、学び直しや学習の振り返りの機会を作ることで学習への動機付けを行った。</p> <p>③年5回の進路希望調査の実施や、学期ごとの個人面談、早期補習や資格補習などの対応など、生徒の幅広い進路指導への対応を行った。校外模試や実力テストの成績は必ず閲覧し、教員間での情報共有を徹底した。</p>	B	B	<p>①電子黒板が活用され、生徒一人一台タブレット端末などICTを用いた授業の改善・工夫を図り充実させる。学科の特性はもとより、グループ学習や習熟度別、個別指導など場面場面に応じた適切な指導法を試みる。</p> <p>②家庭学習の定着を図るため、テストに向けての目標設定や、勉強における課題の拾い出しなどを、生徒自らが率先して行えるよう取組を、Classi等を活用して推進する。</p> <p>(CS委員) アンケートをする時期にも家庭学習時間は変わってくると思うので、平均1時間以上にこだわらずに良い方がよいのではないかと。</p> <p>③生徒一人ひとりのキャリアを積み重ね自己実現できるよう、次年度より、キャリアパスポートを活用していく。</p>
	<p>④ オンライン会議や電子メール等の活用による新しい生活様式に対応した国際交流活動を相手先担当者として検討を重ねて、実施する。(年1回以上)</p>	<p>④隔年でのオーストラリア・セントメアリーズ校との相互交流が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中断している状況である。電子メール等のICTを活用しての新しい国際交流の形を模索し、生徒たちにグローバルな視点を養う交流を行う。</p> <p>④ドイツニーダーザクセン州の生徒との交流についても、オンラインの活用を検討する。</p>	<p>④ オンライン会議や電子メール等を使用し、国際交流を行うことができた。(年6回)</p>	<p>・セントメアリーズ校の担当の先生とのZoomでの打ち合わせを行い、1回授業をした。</p> <p>・新しく台湾国立彰化高級中学から依頼があり、Zoomを使用し、4回交流を行い、メールのやり取りができた。</p> <p>・ドイツニーダーザクセン州の生徒との交流に関しては、実施することができなかった。</p>	A	A	<p>④新型コロナウイルスの第5類への移行に伴い、国際交流を活性化し、那賀高校生にグローバルな視点と同時にグローバルな視点を養わせていきたい。</p> <p>(CS委員) ・実際に英語を使用することによって生徒の英語への関心が高まっていく。 ・高校生は、なかなか海外の生徒と交流する機会がないので、これからこういう機会をたくさん作って欲しい。</p>
	<p>⑤-1 (両学科共通) 生徒の授業満足度 80%以上</p> <p>⑤-2 普通科及び森林クリエイト科の教育活動について互いに理解している生徒の割合 75%以上</p>	<p>⑤-1 (普通科) 2年次からコース選択制の授業展開とし、コース選択におけるミスマッチがないよう、各コースの特長を生かしつつ、一人一人の進路希望に応じた指導を行う。</p> <p>⑤-2 (森林クリエイト科) 林業学習を中心として、関係機関と連携し、地域資源の活用や最新技術の習得、インターンシップの充実、資格取得等をおして専門的知識、技術の深化を図る。</p> <p>(7) 地域資源の活用 → 地域機関との連携学習を5回以上実施する。</p> <p>(1) 最新技術の習得 → 高性能大型林業機械、ドローン等の講習会を3回以上実施する。</p> <p>(7) 資格取得 → 林業関係の資格を3つ以上取得する。</p> <p>・生徒が那賀高校の特長である普通科と農業科(森林クリエイト科)併置の強みを理解できるよう、教育活動の場面で周知を図る。</p>	<p>⑤生徒の授業満足度は約72%である。</p> <p>⑤それぞれの学科の教育活動について、互いに理解している生徒の割合は、約69%である。</p>	<p>・普通科におけるコース選択ガイダンス等面談も繰り返し、また授業におけるICTの活用等の工夫をしているが、十分満足している生徒の割合は50%、どちらともいえないという生徒の割合が約44%有るのが現状である。</p> <p>・森林クリエイト科においても地域の特産品である木材を活用し、地元企業や販売店と連携した商品開発などを実施し、6次産業化学習を展開できた。林業分野におけるインターンシップ、外部機関と連携した林業学習、流域林業事業者への見学研修などを、年間をとおして5回以上実施できた。資格取得においても、那賀町林業テクニクールと連携し、卒業までに最大9つの林業分野の資格取得を行っている。</p> <p>授業展開においてもICTを活用し、アクティブラーニングや協働学習に取り組めた。</p>	B	B	<p>⑤ICTを使用した、生徒によりわかりやすい授業展開を考え、また、生徒の授業での有効なICTの活用方法について。各教科で一層研究を深める。</p> <p>加えて普通科、森林クリエイト科の教科を横断した教育課程の展開を考えていく。</p>

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
2 心のかよう生徒指導 ① 基本的な生活習慣の確立 ② 安全・安心な学校教育の実施と保護者との連携強化 ③ 個別指導をとおした生徒理解と望ましい集団づくり ④ 特別活動・部活動の更なる活性化と生徒・教職員の信頼関係の強化	①-1 欠席数・遅刻者数前年度の80%以下 ①-2 服装・頭髪検査違反者全体の10%以下	①-1 学習習慣を確立、個人面談等を実施し、保護者との連携も回りながら、生徒が登校できるように支援する。 ①-1 遅刻ゼロ週間、遅刻者集会を実施する。また、毎朝バス停留所前での登校指導の実施や遅刻生徒の入室許可証の提出を徹底させる。 ①-2 全校集会での生徒生活指導講話や服装・頭髪検査を実施する。また、違反生徒については担任・学年団・生徒課が連携して指導する。 ①-3 定期健康診断結果に基づき医療機関への受診勧告や保健指導の充実を図る。 ①-3 食生活に関するアンケートを実施し、給食検討委員会や食育推進委員会を実施し、食に対する意識を高める。 ①-3 地元の伝統的な相生晩茶の茶摘み体験を2年生福祉コースの生徒が行い、希望者には、地域の食材を用いた調理実習を行う。 ①-3 寮生会議を毎月実施し、寮生が、自身の生活を振り返り、より良い生活となるよう、基本的な生活習慣の確立や、規範意識を高揚させる機会となるようにする。	①-1 欠席者数は前年度比12%の増加、遅刻者数は前年度比14%の増加であった。 ①-2 服装・頭髪検査の違反者の割合は、少ない月で8%、多い月では20%であり、平均すると15%だった。 ①-3 地域の特産品や郷土料理に関する実習を年7回実施した。	①-1 遅刻ゼロ週間、毎朝バス停留所前での登校指導の実施や遅刻生徒の入室許可証の提出を徹底させた。遅刻者集会については実施があまりできなかった。 ①-2 全校集会での生徒生活指導講話や服装・頭髪検査を実施し、違反生徒については担任・学年団・生徒課が連携して再検査を行い指導した。 ①-3 定期健康診断は計画的に実施でき、生徒の健康の保持増進と安全管理に役立ることができた。 ①-3 食生活アンケートを3回実施し、給食検討委員会を1回行った。 茶摘みや「かきませ」実習、遊山箱のメニュー開発など、地域の方を講師に招き実習を行い交流を図った。 ①-3 寮生会議を毎月初めに実施し、寮生のみで話し合い、寮生活を振り返ることができた。できたこととできなかったことを明確にし、次につなげることができた。	B	B	遅刻ゼロ週間を通して、遅刻者への指導を徹底させ遅刻減少に努める。長期欠席者への早めの対応を心がけ、組織的に関わりながら、登校できるように促していく。服装・頭髪検査前後の指導も力を注ぎ、普段からの身だしなみへの意識を高めていき、常習化している生徒の改善を粘り強く行っていきたい。毎朝の登校指導、学校安全の日の呼びかけを継続して行い、交通安全の啓発活動を実施していく予定である。 多様な生徒の実態に応じ、引き続き関係機関と連携して外部人材等の積極的活用を推進する。 スクールカウンセラーの来校回数を可能なら増やし、一層の連携を行いたい。 (CS委員) 遅刻者を前年度比率にするのではなく、多遅刻者のグループが、年間で遅刻がどのくらい減少したか、遅刻をしてこなかった生徒の遅刻率を増加せよとすんだかを図ればいいのか。
	②-1 交通・生活安全指導毎月実施 ②-2 寮の帰省届・証明書提出率100%	②-1 毎朝バス停前での登校指導を実施するほか、学校安全の日の登校指導を実施する。また、交通安全教室を年1回以上実施する。さらに、秋の全国交通安全運動期間中での交通安全運動を実施する。 ②-1 「学校安全の日」や薬物乱用防止教室を実施するほか、携帯電話安全教室を実施する。また、地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き、合同巡視を実施する。 ②-2 帰省や外出における規則を遵守させることで、規律を守ることや、防犯・安全に対する意識を高揚させる。	②-1 交通・生活安全指導を毎月実施した。 ②-2 寮の帰省届・証明書提出率は100%であった。	②-1 毎月の交通・生活安全指導のほか、交通安全教室を12月に実施した。秋の交通安全運動や交通安全講話も実施した。また、地域ぐるみで生徒の健全育成に取り組む中高生徒指導委員会を開き、合同巡視を実施した。 ②-2 生徒が、帰省や外出について舎監の先生に伝える習慣が身につく、規則を守る意識が高まり、安全に過ごすことができた。	B	B	

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方策	
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	
	<p>③-1 感染症に罹患した生徒数の前年度比 減少</p> <p>③-2 AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会（年1回以上実施）</p> <p>③-3 学校生活に関するアンケート調査（年4回実施）</p>	<p>③-1 感染症や伝染病予防の充実を図るため、年度当初及び必要に応じて随時個人面談や保健調査を実施し、健康で安全な学校生活を送るために必要な情報を集め、学習環境を整える。</p> <p>③-1 年4回環境衛生検査を実施し、結果をもとに安全で衛生的な学校生活を送るため、よりよい教室環境を整える。</p> <p>③-1 保健委員会の活動として、感染症予防のための教室の換気や手洗い・うがい・マスクの励行など啓発する。</p> <p>③-2 事故や災害に備えて、自他の生命を守るための知識と意識の高揚を図る。</p> <p>③-3 生徒のメンタルケアと、いじめ等を早期発見するため、学校生活に関するアンケート調査を実施する。</p>	<p>③-1 インフルエンザ罹患者は1名で、新型コロナウイルス感染症では学級閉鎖が1件と複数の感染者が出た。</p> <p>③-2 AEDを用いた心肺蘇生法や救命救急処置法に関する講習会を実施した。</p> <p>③-3 学校生活に関するアンケート調査を県教委実施分を含め年5回実施した。</p>	<p>③-1 定期的に新型コロナウイルス感染症に関する情報を生徒に提示し、感染症対策に取り組むことができ、迅速な対応の成果もあり、学校全体の教育活動に影響を及ぼす感染の拡大には至らなかった。新型コロナウイルス感染症対策としてアルコール消毒を実施するなど、感染症対策にも取り組んだ。</p> <p>③-2 新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、従来通りの研修ができなかったため、部活動単位の少人数制で実技研修をおこなったり、教職員には、ビデオで研修を行った。</p> <p>③-3 いじめのアンケート等を実施し、生徒の実態把握に努めた。</p>	B			<p>先生方にはいろいろと取り組み、工夫してもらっている。生徒側には、果たして身に付いているのか気になることもある。バス停の利用の仕方など地域から見て、気になることもあるが学校と協力していきたい。</p> <p>コロナ禍前の学校行事に戻りつつあるが、3年間の自粛生活で、生徒も、教員も、コロナ以前の学校行事の経験がなく、課題もたくさん残った。教員間の話し合いを密にしなが、様々な意見を集約して、生徒の満足度が80%以上にしたい。</p>
	<p>④ 球技大会や学校祭等の学校行事 「満足」と答えた生徒の割合80%以上</p>	<p>④ 部活動顧問会議で部活動運営上の諸課題について顧問間の共通理解を図るとともに、部活動連絡協議会を通じて部活動生徒を指導する。全校一丸となった指導を行うことにより生徒・教職員の絆と信頼関係を強化する。</p> <p>④ 生徒会役員・部活動生徒が活躍し、特別活動関連行事が円滑に実施できるよう、企画から運営まで計画的に指導する。</p>	<p>④ 「満足」と答えた生徒の割合は70%であり、達成はしなかったが、「学校行事による」も含めると94%が「満足」となった。</p>	<p>④ 部活動の顧問会議を開き、運営の諸課題について話し合う機会を設けることができた。</p> <p>④ 今年度は、昨年度より、学校行事をすることができた関係で、生徒会役員・部活動生徒などが活躍する場ができた。</p>	B		<p>(CS委員)</p> <p>④の質問方法で、「満足」で測る質問ではなく、「楽しかったですか?」の質問に変える方がよいのではないかと。</p>	
	<p>⑤-1 担任による個別面談 年3回以上実施 夏季休業中の三者面談 全員実施</p> <p>⑤-2 クールカウンセラーとの連携を密に図った教職員校内研修会 年1回以上実施</p> <p>⑤-3 特別な支援が必要な生徒の指導について、関係機関において相談や支援が受けられるよう、生徒や保護者に働きかけを必要に応じて行う。</p>	<p>⑤-1 教育相談や特別な支援を要する生徒を早期に見出し、保護者とも連携して、適切な対応・支援をする。</p> <p>⑤-2 学習支援員とも連携し、支援を要する生徒へのきめ細やかな指導を行う。</p> <p>⑤-2 各学年団との情報交換をすとも、教育相談に関するアンケートを年3回以上実施する。</p> <p>⑤-3 校内研修会（ケース会議を含む）の実施により、教職員の特別支援教育に関する理解を深め、生徒への指導や支援に活かす。また、学年会や教科会において情報交換を図り、適切な支援や対応について共通理解を図る。生徒・保護者対象に、相談の啓発を行い、円滑な学校生活への支援体制を築く。</p> <p>⑤-3 卒業後の進路実現に向けて、保護者とも連携が図れるよう、早い段階から面談を実施する。</p>	<p>⑤ 担任による個別面談を年3回実施した。また、夏期休業中の三者面談を実施したうえで、面談が必要とする生徒には、その都度面談を行った。</p> <p>⑤ スクールカウンセラーとの連携を密に図った教職員校内研修会を実施することはできなかった。</p> <p>⑤ 特別な支援が必要な生徒の指導について、三者面談や進路相談が実施された際、必要に応じて、生徒や保護者に働きかけを行った。</p>	<p>⑤ 必要に応じて、三者面談や教育相談に同席し、保護者や生徒に対して情報提供したり、個別支援を行うことができた。</p> <p>学習支援員と連携し、個別の指導計画の立案、行動チェック表の活用等、きめ細やかな指導を行うことができた。</p> <p>各学年団と情報交換をすとも、学校生活アンケートを年3回実施することができた。</p> <p>12月にみなと高等学園の2名の巡回相談員を講師に迎え、特別支援学校における個別支援についての研修を実施し、知識や理解を深めることができた。</p> <p>生徒の実態把握を行い、必要に応じて生徒・保護者に教育相談の啓発を行った。また、スクールカウンセラーとも連携を密にし、教育相談活動を充実させることができた。</p>	A			

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
3 学びあい響きあい高めあ う心の教育の推進	① 学校行事により、集団への 帰属意識や協調性が養われた と答えた生徒の割合 80% 以上	①遠足・文化祭・体育祭や大学短大等への体験 入学・企業へのインターンシップなどの行事にお いて、地域住民や中学生との交流を深めること により、マナーやモラル、思いやりを身につけ、人間 性や社会性を高める。	①学校行事に仲間と協力して 取り組むことができた と答えた生徒の割合は96%であった。 集団への帰属意識や協調性は 養われたと考えることができた。	・昨年度中止となった修学旅行も2年3年と もに実施でき、文化祭・体育祭においても3 日間実施することができた。文化祭は非公 開としたが体育祭は保護者のみ公開とす ることができた。学校行事もコロナ禍以前の状態に 戻せつつあり、地域住民や中学生との交流を 深め、マナーやモラル、思いやりを身につけ 人間性や社会性を高めていきたい。	A	A	今後も、学校生活に対するアンケートや、 必要なら、話も丁寧に聞きとり、全生徒が 充実した学校生活を送れるように一人一 人に寄り添う教育を行っていく。	
	① 豊かな人間性と社会 性の涵養により自信や誇 りをもたせる ② 人権意識の高揚と一 人一人の人権が尊重さ れる学校づくり ③ 情報モラル教育の推 進 ④ 学校・家庭・地域との 連携の強化	②-1校内人権問題意見発表会 や人権映画鑑賞会などの行事 年1回以上開催 ②-2いじめ等のアンケート調査 年4回実施	②-1生徒の人権意識の高揚のために、校内人権 問題意見発表会で身近な人の意見を聞くこと により、様々な人権課題を自分自身の問題として捉 え、人権問題を解決する意欲や実践力を養う。 ②-1映画のストーリーについて考えたり、登場人 物の気持ちに寄り添ったりすることによって、自他 を尊重する態度を育成できるように、連携中学校と 相談しながら映画を選定する。 ②-2アンケート調査結果により、人間関係の把握 に努め、助言や支援が必要な生徒には、速やかに 面談を実施する。 ②-2家族的なあたたかい雰囲気づくりに努める ために、学期に1回部屋替え及び役割分担の 変更を行い、レクリエーションを年3回実施し、学 年間の交流を促進する。寮生活に慣れることが できるよう、日直・舎監が積極的に声かけをし、寮生 全体の雰囲気を把握する。	②校内人権問題意見発表会お よび人権映画鑑賞会を各1回 実施。	・オンラインでの実施となったが、人権問題 意見発表会は那賀町の人権擁護委員の方や 連携中学校の先生方にも視聴していただ いた。発表者は身近な人権問題をはじめ、自 身の悩みなど様々なテーマについて発表し、 様々な人権課題を自分自身の問題として捉 え、人権問題を解決する意欲や実践力を養 う機会を持つことができた。また、映画の ストーリーについて考え、登場人物の気持ちに寄 り添うことで人権意識の向上を図ることが できた。 ・7月、10月、1月、3月と4回、いじめ等のア ンケート調査を実施した。必要に応じて、担 任、養護教諭、学校カウンセラーと連携を して、個別面談を実施することもできた。 ・寮内では新型コロナウイルス感染症感 染防止のため、極力個室とし、部屋替えやレ クリエーションは中止となったが、生徒はあ たかい雰囲気の中で寮生活を送ることが できた	A	【所見】 新型コロナウイルス感染防止の観 点から、中止や、延期もあったが、 文化祭、体育祭、修学旅行など、短 縮しながらも、実施することができ た。生徒たちも大変喜び、友人の 新たな面を発見することができた、 やっとな学校行事ができたこと 喜びの声があがっている。先生 方が、創意工夫した成果であると 評価している。 また、那賀高人権デーを設け、 人権委員が人権について校内放 送で「人権の大切さ」を呼びか けている。校内において、差別 落書きや、いじめなどの案件が 本年度はないことから、一定の 成果が上がっていると考えら れる。	(CS委員) コロナが5類になったら、ど んどん体験をして欲しい。知 識と体験を与えることが大 切だと考える。
	③ インターネットやSNS等 の利用における情報モラルに 関する人権放送等の全学年 行事年1回以上実施	③タブレット端末の使用にあ たってのルール作りを進め、 家庭での活用について保護者 との連携を進める。 ③教科指導のみならず全 てのICT活用場面の機会を 捉えて情報モラルに対する啓 発を行う。 ③人権放送において、イン ターネットやSNS等に関する 情報モラルのテーマを設定 する。	③人権デーで「SNSにお ける人権侵害」をテーマに 人権放送を実施した。	③校内放送により全校一 斉に、インターネットによ る人権侵害について、法 律で禁止されていること や自分が被害者になった 時の対処法などを考えたり 、学んだりすることができ た。	A			
	④-1学校・家庭・地域との 連携の強化を図るために、 PTAや人権擁護委員に対 して人権映画鑑賞会や校 内人権問題意見発表会へ の参加を依頼し、広報す る。 ④-2校内の人権に関する 行事や部活動の様子につ いて、月1回以上ホーム ページに掲載する。	④-1保護者・地域・近隣 学校を対象にした人権 映画鑑賞会や校内人権 問題意見発表会の案内を、 ホームページへの掲載等 を通じて行う。 ・人権擁護委員へ参加を 依頼し、連携を強化する。 ④-2人権に関する行事を 計画したり、ゆずの会の 活動を積極的に行ったり する。	④-1校内人権問題意見 発表会の方や連携中 学校の先生に参加して いただいた。 ④-2月ごとの偏りはあ ったが、延べ月1回以上 ホームページに掲載した。	④各行事への保護者の 参加については見合 わせたが、連携中 学校教員や那賀町 人権擁護委員の方 には参加頂けた。 素晴らしい内容 であったというお 言葉も頂いた。 また部活動(ゆ ずの会)では校外 活動にも積極的 に参加し、その 様子や学校行事 の様子をホーム ページに掲載した。	A			

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	
4 夢をはぐくむ進路指導	①-1進路希望者対象の早朝補習 1・2学年 週3回 3学年 週5回実施	①-1基礎学力の底上げと、校外模試に対応できる応用力を養うために、早朝補習を計画・実施する。 ①-2進路校討会等により、担任面談結果を学年団で共有し、生徒の指導を連携して実施する。 ①-2各種関連機関と協力して、生徒の進路実現のための進路ガイダンスを実施する。 ②総合的な探究の時間(FDタイム)を活用して、大学・専門学校等の訪問(1年)やインターンシップ(2年)の振り返りを実施し、生徒のキャリア形成を支援する。 ②Classiのポートフォリオを活用し、個々の生徒の学びを振り返ることのできるキャリアパスポートを作成する。	①-11・2学年では週3回、3学年では進学・就職・公務員のコースに分かれ、週5回の早朝補習を実施した。 ①-2校外模試対策および各種資格取得対策補習も放課後等に実施した。 ②7月と3月には校内進路ガイダンスを実施した。大学・専門学校訪問は11月、インターンシップは10月に実施した。	①早朝補習は計画通りに実施することができた。長期休業期間中の補習などで、スタディサブリのオンライン講演会、大学・専門学校による出前授業の実施など、多様な形態で補習を実施した。 学びのサポーター支援事業を活用することによって、生徒個々の就職面接指導や大学受験指導にも対応した。校外模試の対策や基礎学力向上のための放課後補習も実施した。 ②校内進路ガイダンスでは、株式会社さんぼうに依頼し、新型コロナウイルス感染症対策をしながら県外の大学や専門学校からも来校してもらうことができた。 大学専門学校では普通科生徒は県内の大学・専門学校4校から希望する学校へ訪問し、森林クワイエット科生徒は農林水産技術センター、徳島農業アカデミーを訪問した。 9月には徳島県中小企業同友会と連携して学内インターンシップを開催し、10月には38社の受入事業所で2日間のインターンシップを実施した。	A	A	Classiやスタディサブリなどのデジタルコンテンツについては、苦手意識をもった教員および生徒が一定数いる。普段から活用することで、使用に関する抵抗は少なくなるので、デジタルコンテンツの活用は苦手意識のある人に対しても、扱いやすいような環境整備を推進する。	
	① 進路実現を図る学力の育成 ② 進路意識を向上させる各種行事の計画と実施 ③ 進路ガイダンスの充実と教職員のガイダンス能力の向上 ④ 資格取得・検定合格に向けた指導の充実 ⑤ 保護者対象進路説明会の充実	② 学年段階や学科・コースに応じた進路ガイダンス 年2回以上実施 大学等訪問(1年) インターンシップ(2年)実施	③ 各種大学等の説明会への積極的な参加を教員に周知する。 ③GIGAスクール委員会と連携し、スタディサブリやClassiなどのオンライン研修会参加を積極的に呼びかける。	③Classiポートフォリオやスタディサブリ活用の教員研修を実施した。全校生徒および教員を対象としたキャリア教育講演会も実施し、3回の校内研修会を実施することができた。	③キャリアパスポートの推進として、Classiポートフォリオの活用方法についての研修を担当教員で実施した。スタディサブリ研修会および、キャリア教育講演会については、外部講師を招聘して、対面での研修を行うことができた。	A	【所見】 対面での早朝補習や、教育ソフトを使用し、生徒の学力向上に努めた。また、Classiを使用し、全生徒がデジタルデータでポートフォリオを作成することが木出ている。 また、教職員にも、研修を実施し、生徒のポートフォリオを全職員が見ることが可能となり、生徒に対する共通理解が可能となった。 また、多くの企業に協力していただき、インターンシップを行うことにより、職業についてクラスメートで共有できた。徳島県教育委員会より指定研究を受け、2年生を対象にキャリアパスポートのより有効な使用について実践を行った。	学内インターンシップは、今年度が初めての取組であったことから、次年度も継続できるように次年度2年団に引き継ぐ。 次年度は、全学年にキャリアパスポートの有効な使用方法を研究し、全ての生徒の進路実現を進めていく。 (CS委員) ③先生方の学ぶ姿勢と新しいシステムに順応していく力にすばらしさを感じます。
	④ 生徒個々の能力にあった資格取得の指導を徹底し、各科と連携を図りながら、資格検定を実施 各学期3回以上 ④ 全校生徒の資格取得率60%以上	④ 各教科と連携して各種検定を年度当初に計画し、実施する。	④ 全生徒の資格取得率を60%以上とする。	④ 各種検定試験および資格取得については、新たに68%の生徒が取得している。	A	A		
	⑤ 各学年の保護者対象の進路説明会 年1回開催 同 参加率 50%以上	⑤ 学年主任を中心にして、学年の課題を共有し、テーマを明確にして各学年の進路説明会を開催する。	⑤ 1学年は10月、2学年は12月、3学年は6月に実施した。 保護者の参加率は全体で概ね50%であった。	⑤ 保護者への案内を渡し、参加を促した。ベネッセと連携して、進路講演会(ZOOM)を実施した。学年ごとの保護者参加者は、1学年が27名、2学年が18名、3学年が29名であった。	A	A		

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策		
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
5 GIGAスクール構想の推進と防災教育・環境教育の充実	① GIGAスクール構想の推進による学びと働き方の改革 ② 防災・減災教育の深化とエンカール教育の充実 ③ 「徳島県新学校版環境ISO」の認定取得経験を生かした環境教育の実践 ④ 校内外の環境美化活動の推進	① 昨年に引き続き、タブレット端末を活用した授業やポートフォリオ作成に向けた体制整備の強化を行う。	① 学習支援アプリの活用法についてweb研修等を活用する。 ① 情報セキュリティ担当部署をさらに強化する。 ① 共有フォルダや動画等を活用した研修、教員同士の協働を推進し、全員が集まった研修を減少させる。 ・ICTの活用について相互研修・研究を行う。	① デジタル教科書やデジタルポートフォリオの実証事業を通し、教員間の相互研修を充実させた。 昨年度に比べ、タブレット端末の活用法が資料提示中心から多岐にわたって活用される用に変化した。	① GIGAスクール構想サポート研修を活用し、Microsoft Teamsの校内研修を実施した。 生徒端末を活用した授業では、総合的な探究の時間や国際交流など、昨年度より活用を場を広げている。	A	B	それぞれの活動をより一層充実させていく上で、その活動が一部の生徒ではなく、全校に広がっていくように考えていきたい。 (CS委員) ① デジタル教科書も、デジタルポートフォリオもツールであるので、まずは使ってみるという機会を生徒たちに与えて使わせていくことが大事なことである。次年度も生徒に使用する機会を作って欲しい。
		②-1 防災避難訓練・講習会等 年4回以上実施	②-1 防災避難訓練を学校や寮で実施し、生徒の学校防災人材支援講座への参加を支援する。 ②-1 防災食づくり講習会を通して地域の方との交流を深め、防災意識の向上を図る。	②-1 避難訓練・講習会を実施した。	①-1 防災に関する活動を積極的に、地域の方々へ啓発活動を行うことができた。また、ホームページを活用して広く防災について広報することができた。			
		②-2 エンカール消費に関わる『服活』等のイベントを年5回(校外3回)以上実施	②-2 ホームページやSNS、ポスター掲示により、服の回収や「服活」イベントへの積極的な参加を呼びかける。	②-2 「服活」を校内外あわせて14回実施した。	①-2 エンカールクラブ員を中心に、各イベントに参加し、「服活」を行った。4000着以上譲渡することができた。 ホームページや各種メディアを通して広報することができた。	B	③④-1 ごみの分別が「できている」と答えた生徒の割合 90%以上 ③④-2 「教室の環境整備が行われている」と答えた生徒の割合 80%以上 ③④-3 SDGsを「知っている」と答えた生徒の割合 60%以上	
③④-1 ごみの分別が「できている」と答えた生徒の割合 90%以上	③④-1 各生徒が校内でのゴミの分別を徹底できるように、定期的な環境委員によるゴミ箱のチェックと分別の呼びかけを行う。 ③④-2 環境委員を通して教室の美化・環境整備を徹底し、日々の清掃活動の徹底に加え、大掃除の際に普段できていないところまで清掃を行うことで、校内美化活動を推進する。 ③④-3 那賀高前バス停留所及び周辺の美化活動に取り組むとともに、バス利用者にマナーの遵守を呼びかける。 ③④-3 節電・節水の啓発及び電気使用量の昨年度比較を周知し、徹底した省エネ意識の高揚を行う。 ③④-3 身近な行動が、持続可能な社会の形成に関わっていることを、「現代社会」「家庭基礎」等の教科を通じて学習を深める。	③④-1 ごみの分別が「できている」と答えた生徒の割合は、約85%であった。 ③④-2 「教室の環境整備が行われている」と答えた生徒の割合は約70%であった。 ③④-3 「服活」=SDGsの結びつきを理解している生徒の割合は、73%である。	③④-1 各生徒が校内でのゴミの分別を徹底できるように、定期的な環境委員によるゴミ箱のチェックと分別の呼びかけがあまりできなかった。 ③④-2 環境委員を通して教室の美化・環境整備を徹底し、日々の清掃活動の徹底に加え、大掃除の際に普段できていないところまで清掃を行うことで、校内美化活動を推進をおこなうことが十分にはできなかった。 ③④-3 那賀高前バス停留所及び周辺の美化活動に取り組むとともに、バス利用者にマナーの遵守を呼びかけた。 ③④-3 節電・節水の啓発及び電気使用量の昨年度比較を周知し、徹底した省エネ意識の高揚を行うことが十分ではなかった。 ③④-3 身近な行動が、持続可能な社会の形成に関わっていることを、「現代社会」「家庭基礎」等の教科を通じて学習を深めた。	B	ゴミの分別に関しては、評価指標に掲げた数値以上になるよう、考えていく必要がある。また、ゴミの分別を通して、SDGsに基づき、なぜ分別が必要かの意味を教えたい。			

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価			次年度への課題と今後の改善方策		
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
6 連携型中高一貫教育プログラムの推進	① 地元中学校との連携を強化した授業の実践 ② 学校行事における合同事業の充実 ③ 連携中学校への積極的なPR活動	① 中高一貫教育研究委員会の教務委員会を活用し、チームティーチングにおけるオンライン教育での連携のあり方について検討を進める。	① TT実施時間の確保に努め、またTTの方法についてICTの活用を含め中高一貫教育研究委員会の教務委員会において検討する。 ② タブレット端末の教育活動における活用状況について、連携3中学校と情報交換し、高校への円滑な移行について協議する。 ③ 高校・中学校双方が実施する授業研究会や公開授業について、オンライン・オフライン問わず積極的に参加する。	① 中高一貫教育研究委員会教務委員会の具体的方策の一つに、これからのチームティーチングのあり方やタブレット端末等の活用を取り上げて、委員会を2回開催した。	基本的に毎週2時間のチームティーチングを実施することができている。チームティーチングでのタブレット端末の活用については、教科の特性に応じて取り組んでいる。またアプリやウェブサイトについて中学校と情報交換を行っている。 授業研究会や公開授業も各中学校で実施し、保護者の感想もいただきよりよい連携を築くことができている。	B	B 【所見】 中高連携による学校行事等においては、新型コロナウイルスの感染拡大や拡大防止などの影響を受け、対面での交流に制限があり、十分な成果が出せていない。しかし、ICTの活用を最大限利用し、生徒間の交流をすることができた。 Team Teachingにおいては、対面を実施することができ、生徒、保護者のアンケートでも、満足できるとの回答が70%以上となっている。	
		②-1 新しい生活様式下での学校行事での合同事業について、ICTの活用や開催方法の工夫などを協議して開催する。 ②-2 各部活動において、連携中学校との合同練習や練習試合、体験会を実施する。 ②-3 那賀高校生徒会と連携中学校の生徒会の交流集会 年1回実施	②-1 那賀高祭での連携中学校生の参加について、参加形態や方法について事前の連携、打ち合わせを早い段階で行う。 ②-2 各部活動で中学生を受け入れ、中学生体験入学時や他の時期にも体験入部を実施する。 ②-3 那賀高校と連携中学校の生徒会役員による各学校紹介や情報交換・レクリエーション等を実施し、交流を深める。 ②-3 連携中学校での学校行事や学級会活動において、那賀高校の説明を実施したり、生徒会同士の交流を行う。 ②-3 すべての交流活動において、リモートでの活動も検討する。	②-1 新しい生活様式下での学校行事での合同事業について、ICTの活用や開催方法の工夫などを協議して開催する。 ②-2 各部活動において、連携中学校との合同練習や練習試合、体験会を実施する。 ②-3 那賀高校生徒会と連携中学校の生徒会の交流集会 年1回実施	②-1 那賀高祭での連携中学校生の参加について、参加形態や方法について事前の連携、打ち合わせを早い段階で行う。 ②-2 各部活動で中学生を受け入れ、中学生体験入学時や他の時期にも体験入部を実施する。 ②-3 那賀高校と連携中学校の生徒会役員による各学校紹介や情報交換・レクリエーション等を実施し、交流を深める。 ②-3 連携中学校での学校行事や学級会活動において、那賀高校の説明を実施したり、生徒会同士の交流を行う。 ②-3 すべての交流活動において、リモートでの活動も検討する。			
		③ 各連携中学校とテレビ会議システムを用いた生徒同士の交流 年1回実施	③ 連携各中学校とテレビ会議システムを活用し学校紹介をする。	③ 令和5年1月18日にオンライン交流(本年度テレビ会議からオンライン交流に名称変更)を実施した。	③ 1学期の進路指導委員会にて3学期に実施を計画。12月頃に連携中学校と日程を調整。生徒会役員および連携中学校出身生徒計11名でオンライン交流を実施した。	A		

令和4年度 学校評価総括評価表

重点課題	評価指標と活動計画		評価				次年度への課題と今後の改善方策	
	重点目標	評価指標	活動計画	評価指標の達成度	活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見
7 地域に開かれた活力ある学校づくりの推進	① 学校運営協議会において、本校教育活動や地域の抱える課題等について協議し、新しい取組を検討する。	① 学校運営協議会を年3回実施し、特色ある教育活動等を協議し、地域と協働して実施していきのできる取組を検討する。	① 学校運営協議会を年3回実施することができた。第2回については、創立70周年記念式典と同時開催とした。	① 学校運営協議会委員からは、学校運営の充実に資する指導や助言をいただいた。また、創立70周年記念式典へ出席していただき本校の歴史を知ることと地域とともに歩んできた学校としての認識を深める機会となった。	A	A		
① コミュニティ・スクールの導入による地域とともにある学校づくり ② 魅力ある学校行事の実施と保護者や地域の人々への学校公開 ③ ホームページ、広報新聞、ケーブルテレビ等によるPR ④ 地域との連携を密にした学習活動と地域の担い手となる「人財」の育成	②-1 球技大会や学校祭等の学校行事について、「満足」と答えた生徒の割合 80%以上(再掲) ②-2 一般公開される行事(那賀高祭等)について、期日・内容等を早期から広くPRする。 ③ 広報新聞(「せせらぎ新聞」) 年3回発行	②-1 学校行事に生徒が主体的に参画できるよう、生徒会が中心となる取組を検討する。 ②-2 参加可能な地域の活動・行事に、ボランティア活動等で参加する。 ②-2 一般公開される行事の期日・内容等を地域のケーブルテレビ等を使って広報するとともに、地域の方が参加して楽しめる内容のイベントを企画して実施する。 ②-2 コロナ禍においても、那賀高祭等の学校行事や日々の学校生活について保護者の意見を聞く機会を設けられるようICTの活用等について工夫する。 ③ 広報新聞の紙面構成を検討し、内容を充実させる。	②-1 球技大会や学校祭等の学校行事について、「満足」と答えた生徒の割合 80%以上(再掲) ②-2 一般公開される行事(那賀高祭等)について、期日・内容等を早期から広くPRする。 ③ 広報新聞(「せせらぎ新聞」) 年3回発行し、那賀高校の情報提供をおこなった。	②-1 学校行事に生徒が主体的に参画できるよう、生徒会が中心となる取組を検討する。 ②-2 参加可能な地域の活動・行事に、ボランティア活動等で参加する。 ②-2 一般公開される行事の期日・内容等を地域のケーブルテレビ等を使って広報するとともに、地域の方が参加して楽しめる内容のイベントを企画して実施する。 ②-2 コロナ禍においても、那賀高祭等の学校行事や日々の学校生活について保護者の意見を聞く機会を設けられるようICTの活用等について工夫する。 ③ 今年度も計画どおりせせらぎ新聞を年3回発行することができた。	A	A	【所見】 今年度は、学校運営協議会にて、「SDGsへの取り組み」及び「地域学」についてのアドバイスをいただき、「服活」や授業を通して、「SDGs」の観点を授業に取り入れた。また、1年次より、「総合的な探究の時間(Future Design Time)」の内容をキャリア教育から、地域探究へと主軸を変更し、同時に、普通科・森林クリエイト科の合同授業も実施できた。 新型コロナウイルスの影響をうけながらも、感染予防策を講じながらも工夫しながら球技大会を開催したり、ケーブルテレビを通して、体育祭を公開するなどできた。また、地域と連携もおこなうこともでき、生徒の人財育成を目標とし、充実した教育活動を行った。	次年度も、これらの取り組みを行いつつ、FDタイムの充実を行っていく。また、新型コロナウイルスの制限も緩和されていくことが予想されるので、学校行事や、連携中学校との交流そして、地域交流について対面での活動を取り入れ充実を図ってきたい。
	④-1 地域と連携した社会人講師の活用(6回以上実施) ④-2 地域産業の体験活動を実施(年間1回以上実施) ④-3 地域でのインターンシップを実施(1名1週間以上実施)	④-1 「福祉」「情報」「林業」以外でも実施する。また、コーディネーターの確保にも努める。 ④-2 地域の伝統産業や伝統文化を体験させる。 ④-3 生徒の進路選択につなげるインターンシップ受入事業所を開拓する。	④-1・2 福祉および林業関係の講演会、研修会を年間を通して実施できた。 ④-3 2学年において10月に2日間のインターンシップを実施した。9月には学内インターンシップを開催し、県南地域の中小企業10社に本校生が参加していただき事前学習会を実施した。	④-1・2 絵本の読み聞かせ、郷土料理講習、ケアホーム実習、ダムサポート事業、林業体験2DAYS実習、木材加工企業見学等および普通科全生徒対象にキャリア講演会を実施した。 ④-3 事前学習会に来校された10社をはじめ、38社の事業所でインターンシップを実施し、受入事業所の開拓に成功した。	A	A	(CS総括) 次年度は新型コロナウイルス第5類になれば、コロナ以前お取り組みに加え、新しい取り組みができるのではないかと考えられるので、たくさん体験の時間を生徒に作っていただきたい。また、あまり厳しすぎない目標の立て方をされた方が良いのではないかと思います。先生方の取り組みと次年度への取り組みの姿勢が良くわかったので生徒の教育活動に期待をしています。地域としても、無形文化財になっているたくさんの方の財産があるので、教育活動に協力をしていきたい。	